

すまじょうなごどで (34) ディビット・マナーリオ (指導主事助手・31歳)



新顔

2008年を皆さんはどのように過ごしましたか。

振り返ってみると、僕にとってはとても充実した年でした。色々な経験がいっぱいできた上に多くの人と出会いました。その一人が葛巻高校のALT (外国人指導助手) です。彼はいわゆるスポーツマンで、野球、アイスホッケー、バスケットボール、格闘技をします。

今月は、彼から町の皆さんへの一言を紹介します。



左から千葉みゆき先生、ディビット先生、ALTのジョン・カプリス先生、神保智子先生 (葛巻高校)

葛巻町の皆さん、こんにちは。僕はジョン・カプリスといいます。23歳、アメリカのマサチューセッツ州ボストン市出身です。葛巻に来て2カ月が過ぎました。秋祭りや葛巻祭、社会体育館などで僕を見かけた人もいられるかもしれません。

今、葛巻高校で楽しく授業をしています。町の皆さんは僕に親切にしてくれました。本当にきれいな葛巻の景色を僕は大好きですが、僕は葛巻ではなく、九戸村に住んでいます。でも、僕はよくこの町で時間を過ごしています。ほとんどの週末は葛巻にいますし、平日でも遅くまでいることが多いのです。

社会体育館、あるいは町で見かけたら遠慮しないで声を掛けてください。皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

葛巻高校ALT ジョン・カプリス

この文章は、ディビットさんが日本語で書いています。



町政課題などの説明を受けた後、町の除雪対策などについて質問する参加者 (11月11日、田野構造改善センター)

夢のある町づくりを語る 町政懇談会を開催



「夢のある町づくりのために皆さんのご意見をお聞かせください」と、あいさつする鈴木重男町長

これからの町のことに考えて町政懇談会は、十一月九日から十一日までの三日間開催されました。六会場に合わせた約百五十

人が出席した懇談会で、町政、町村合併や行政改革などの現状と課題や今後の方向性、今年度の主な取り組みなどについて町から説明。依然厳しい財政状況の中、引き続き住民サービスの低下を招かないよう留意しながら行政改革を進め、スピード感を持って行財政基盤の健全化に取り組む決意を示しました。

会場からは、「町が進めている情報基盤整備の進行状況を町民に詳しく説明してほしい」、「地上デジタル放送は本当に受信できるのか」、「厳しい酪農情勢の中、農家の経営状況はどうか」、「小集落の除雪対策は今後も大丈夫か」、「町の定住対策は、個別農家の対応ではなく、集団で受け入れる方策はどうか」など、町の将来を考えた有意義な意見や質問が交わされました。このうち、地上デジタル放送にも対応した情報基盤整備の町民への情報提供については、現在進めている地上デジタル放送の受信環境調査の結果を踏まえ、今後の計画について詳細な検討を加え一月をめどにテレビ共同受信施設組合をはじめとした関係者へ説明したいと理解を求めました。町は、この懇談会でいただいた貴重な意見や提言を、今後のまちづくりに役立てていく考えです。



農業委員のおじさんと葛巻幼稚園の孫たちが一緒にそばクレープ作り。初めての体験はどちらも「楽しかった!!」

孫の手借りたソバ格別 収穫まつりで再び交流

町農業委員会 (鈴木努会長) と葛巻幼稚園 (楢山節子園長) の園児が手を携えて来たソバの収穫まつりが11月20日、総合センターで行われました。7月18日に一緒に種まきをして待つこと4か月。農業委員の手によって収穫されたソバはそば粉になり、栄養士の手ほどきを受けた園児と委員らは、牛乳やイチゴなど地元食材にこだわった「そばクレープ」づくりにチャレンジ。「自分たちで作ったソバはおいしい」と、園児は大喜び。楢山園長は「教室ではできない体験。子どもたちに夢をくださりありがとう」と感謝しました。

「孫の手も借り隊事業」として、遊休農地約30㍍にソバの種をまいた鈴木会長は「82畝の遊休農地を少しでも減らしたい」と、決意を新たにしました。

寒さなんかへっちゃら 山車を引いて元気よく

第5回新町ミニ文化祭は11月22日と23日の二日間、新町自治会館で行われ約550人が町内で行われる今シーズン最後の文化の祭典を堪能しました。

今年のテーマは「今昔・秋まつり」。訪れた人たちは展示された写真や、衣装、番付などに懐かしそうに見入っていました。また、正月飾りづくり体験も、用意した30人分の材料がたちまち完売するほど人気の的。そしてクライマックスはミニ山車運行。小雪の舞う新町裏通りには「ヤーレーヤー」と山車を引く元気な声が響き渡りました。



「ヤーレーヤー」と、寒さも吹き飛ばすように元気よく山車を引く子どもたち。「ごくろうさん」と、お花を差し出す人もいるほど

こりゃたいしたもんだ 巨大カボチャどっしり

「今年の一等賞は超重量級156.4kg、栗山の仙臺房子さんが育てたカボチャに決定」。

11月1日と2日の両日開かれた江刈地区文化祭の呼び物・第5回カボチャコンテストに出品されたカボチャは、いずれも劣らぬ大物ばかり180個。4人がかりで持ち上げては「はかりは大丈夫？」と計測に当たった役員らは心配顔。過去最高の出品数で、コンテストの人気を集めました。

文化祭では、このほか丸太をチェーンソーで彫り込んで牛や熊などの作品に仕上げるチェーンソーアートの実演会も開催。作業を見守る人たちは、岩泉町釜津田の三上孝弘さんが操るチェーンソーから「次は何ができるの？」と興味津々に見入っていました。



「こりゃたいしたもんだ。はがれ〜るべが」と、あまりの大きさに目を見張る江刈地区の人々